序　　文

阿波学会会長　小　林　勝　美

平成21年度の阿波学会総合学術調査は阿波市の旧阿波町・旧吉野町で実施しました。現地調査は平成21年７月31日～８月９日までの10日間を中心に16学会109名前後の会員が，猛暑の中，体力・気力・探求心を持続させながら行いました。中には春夏秋冬の四季の変化にあわせて調査を継続する班もありその調査姿勢には頭の下がる思いをしております。

本年度の総合学術調査にあたり，行政面で多大なご協力を賜りました野崎國勝市長様はじめ，教育委員会の板野正教育長様，生涯学習課の課長・課員の方々には地元交渉や連絡，さらには，会場設営等々で大変お世話になりましたことに，心から感謝申し上げます。

阿波市の旧阿波町には，国指定天然記念物の「阿波の土柱」ならびに「野神の大センダン」が，また旧吉野町には県指定天然記念物の「案内神社の大クス」が知られています。「阿波の土柱」は，昭和９年に三山六獄のうちの波濤獄が国指定（75年前）となり，雄大な景観は観光資源として今日に至っています。

阿波学会の総合学術調査は発足当初からの県下50市町村（昭和の大合併）の現地調査を丁寧に実施し，研究紀要を完成させ，集大成するものです。それゆえ，学術調査では各市町村の現状課題を構造的に解明し，今日的問題点を個々に鮮明にし，地域住民に問い掛ける調査を推進しています。多くの会員は職業を持っており，休祝日を利用してのフィールド調査は，一人ひとりの使命感や責任感がなければ達成できません。その調査姿勢は地域の歴史や文化，自然環境を見る眼を育て，研究者としての感性を磨く機会ともなっています。また若い会員の育成のために，現地調査指導を徹底している活動を垣間見るにつけ，阿波学会は中長期的展望の中で，継続させなければならないと痛感をしています。この調査は全国的にもオンリーワンで，「文化立県とくしま」の推進そのものであると思っています。

最後になりましたが，平成21年度総合学術調査ならびに紀要第56号発刊に支援いただいた関係各位には，紙面をお借りして厚く御礼申し上げますと共に，益々のご発展をお祈りします。